

(氷蓄熱マルチ・氷蓄熱ユニット／室外ユニット)

系 統		名 称	氷蓄熱ユニット	室外ユニット
形 式			ISUP5602HLX	FDCP2802HLXIB
能 力	蓄熱利用冷房能力		35.5	
	蓄熱非利用冷房能力		28.0	
	蓄熱非利用暖房能力	kW	28.0《33.5》	
	蓄熱非利用暖房低消費電力		22.0《24.7》	
	冷房蓄熱容量	MJ	350	
電 気 特 性	高 温 時 冷 房 蓄 熱 容 量		350	
	暖 房 蓄 熱 容 量		68	
	蓄熱利用冷房消費電力		7.3	
	蓄熱非利用冷房消費電力		7.2	
	蓄熱非利用暖房消費電力	kW	7.1《8.3》	
	蓄熱非利用暖房低消費電力		7.0《8.8》	
	冷房蓄熱消費電力量		29.2	
	高 温 時 冷 房 蓄 熱 消 費 電 力 量	kWh	33.9	
	暖房蓄熱消費電力量		10.0	
	蓄熱利用冷房運転電流	A	22.0	
日 量 蓄 熱 利 用 冷 房 効 率	蓄熱非利用暖房運転電流		22.0《25.8》	5
	始 動 電 流		—	
	蓄熱利用冷房効率		3.51	
	蓄熱利用冷房時間	h	10.4	
	外形寸法 高さ×巾×奥行	mm	2130×1180×1500	1690×1350×720
	電 圧		3相200V 50/60Hz	3相200V 50/60Hz
	製 品 質 量	kg	440	237
	運 送 質 量		2014	—
	装 色		ポーラホワイト	ポーラホワイト
	(マンセル近似)		(2.5/8.5/1近似)	(2.5/8.5/1近似)
熱交換器	製氷熱交換器		銅パイプ式	銅パイプフレートフィン式
	空 気 熱 交 換 器		—	
	水 張 止 止 ー タ	kg	1574	—
	凍 結 防 止 制 御	W	30	—
	製氷規格方式		電子膨張弁	電子膨張弁
	圧縮機		スタティック方式	—
	風量 (冷房/暖房)	kW×台	—	5.78
	送風装置	m3/min	—	220 / 180
	定格出力	W×台	—	126×2
	規格外圧	Pa	—	0(最大50)
水ポンプ	定格出力	kW×台	0.34	—
	冷 媒		R410A	R410A
	冷 媒 封 入 量	kg	3.0(据地封入量)	14.2
	冷 媒 機 油	cc	—	2100
	通 常 運 転 (冷房/暖房)		—	57 / 58
	運 転 音 量 (冷房/暖房)	dB	—	57 < 51.5 >
	室内排水管		12.7 (ろう付)	—
	室外排水管		28.58 (ろう付)	—
	給 水 配 管	φmm	12.7 (ろう付)	9.52 (フレア接続)
	排水配管		28.58 (ろう付)	22.22 (ろう付)
水配管	給 水 配 管	kPa	Rp 3/4 (メネジ)	—
	排水配管		300	—
	ドレン配管		R 1 (メネジ)	—
	オーバーフロー配管		Rp 1/2 (メネジ)	—
	防音・防振・断熱		25A	—
	容量	%	—	圧縮機：防振ゴム
	保 装		—	20-114
	記号		—	記事6による

1. 冷房・暖房能力および電気特性はJIS・B・8615条件によります。
冷房条件 (室内吸込空気温度27℃DB, 19℃WB, 外気温度35℃DB, 室外機－室内機間の配管相当長7.5m, 高低差0m)
暖房条件 (室内吸込空気温度20℃DB, 外気温度7℃DB, 6℃WB, 室外機－室内機間の配管相当長7.5m, 高低差0m)
暖房低消費条件 (室内吸込空気温度20℃DB, 外気温度2℃DB, 1℃WB, 室外機－室内機間の配管相当長7.5m, 高低差0m)
2. 冷房蓄熱・暖房蓄熱の運転条件は下記の様になります。
冷房蓄熱条件 (外気温度25℃DB, 初期水温23℃, 室外機－蓄熱ユニット間の配管相当長5m)
高 温 時 冷 房 蓄 熱 条 件 (外気温度29℃DB, 初期水温23℃, 室外機－蓄熱ユニット間の配管相当長5m)
暖房蓄熱条件 (外気温度2℃DB, 1℃WB, 初期水温5℃, 室外機－蓄熱ユニット間の配管相当長5m)
3. 電気特性は室外ユニットと氷蓄熱ユニットの合計値です。
4. 《 》内数値は暖房能力アップモード運転時の値です。
5. < >内数値はサイクルモード運転時の値です。
6. 保護装置

- ・マイコン保護
- ・送風用電動機過電流保護
- ・送風用電動機過熱保護
- ・高圧力開閉器
- ・マイコン暴走保護
- ・インバータ過電流保護
- ・パワートランススタ過熱保護
- ・電源交相保護
- ・伝送異常保護
- ・圧力断保護
- ・吐出管温度異常上昇保護
- ・低圧保護
- ・給水異常保護

7. 冷暖配管"分岐"部品 (別売品)

組合せ台数・分岐方式 (分岐数またはベッダ) により選定してください。

8. 冷媒量は出荷時の封入量を示し、基準冷媒量 (配管0m時) です。

9. 運転音はJIS規格に準拠し無響室にて測定し、ユニット前面1m、高さ1mでの値です。

実際に据付けた場合は周囲の騒音や建物の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

10. 蓄熱槽内に注水する水管 (初期給水、補給水) については、日本冷凍空調工業会指定の「冷凍空調機器用 水質ガイドライン」に従ってください。また補給水中には異物が無いことを確認してください。

11. 蓄熱ユニットには防錆剤が付属されています。蓄熱槽内へ給水後に防錆剤を投入してください。

12. IPS機として使用する場合は、据付時に蓄熱ユニットISUP5602HLXのフロートスイッチをFS4に切り換える必要があります。

13. 本システムは暖房能力が冷房能力より低くなりやすいです。機種選定時ご注意ください。

暖房負荷が高いケースでは室内機接続容量を100%以下に選定してください。

適用機種 ISUP5602HLX
FDCP2802HLX1B

形 式 ISU

発行者 名 称 要田米 (氷蓄熱ユニット・室外ユニット)

佐々倉 図 番 070219 PKC000Z207 訂 符 業 別 1 / 1